

New Creation Church in Kyoto since 1997

Miracles



2022年6月26日号 No.1316

万事は益となる！

牧師 今井 直喜

万事は益となる。私の好きな聖書の言葉です。

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています」(ローマ8.28)。

失敗したとき、思うような結果が出なかったときなど、人生のいろんなピンチで常に助けてくれました。万事ですから、人生において体験するすべての出来事を指しています。私たちが感じる良い悪いに関係なく、例外はありません。

なぜ、益に変わるのでしょうか。それは、聖書の語る神様が良いお方で、私たちに良いことをしてくださるお方だからです。私たちの人生には自分の思い通りにいかないことが多いですが、それは神様が悪で意地悪なお方だからではありません。もっと良いことを私たちに与えるためなのです。二つ目に、聖書の語る神様は私たちを子どもとして愛してくださ

っているからです。親であれば、だれでも自分の子どもにはよいものを与えるものです。父なる神様は子である私たちに最高のものを与えたいと願っておられます。三つ目は、幸せな人生を送るようにと計画されているからです。聖書の語る神様は、私たちを造られ、私たちの人生も創造してくださったのです。災いの人生、不幸なものではなく、幸せな祝福された人生を用意してくださっているのです。ですので、私たちの人生にはいろいろなことが起こりますが、万事が益となる。最終的には祝福された人生を生きることができるようになります。

この聖書の語る神様を信じるキリスト者は、この言葉を信じて、体験する人生を生きることができるようになります。具体的には、気持ちの切り替えが早くできるようになります。思い通りにいかなくてもイライラすることはありません。他人がちゃんと動いてくれなくても腹を立てることもないのです。むしろ、うまくいかなかったとき、神さまがどんなふうに益に変えてくださるのか、楽しみにさえなってきます。

私たちの人生にはいろいろなことがあります。でも、万事が益となりますから、目の前のことに一喜一憂するのではなく、安心して、期待して、前へ進んでいきましょう。

2022年6月26日(日) 聖日礼拝 11時00分

主題『新しい契約』

説教者：今井直喜

聖書箇所 エレミヤ書31:31-34

31:31 見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。

31:32 この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。

31:33 しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

31:34 そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。

《預言者とは》

神からの言葉を人々に伝える存在である。未来に起こることを告げる預言者とは異なる。神からのメッセージにはこれから先に起こることも含まれるが、それだけではない。神の言葉を人々に伝えるという役割から、現代で言えば、メッセージを語る牧師のような存在と見ることができる。

Cf) エレミヤ31:31 見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。

《エレミヤとは》

ユダ王国の末期、新バビロニアに滅ぼされ、エルサレムの住民が捕囚とされる時期に活動した。当時は新バビロニア帝国とエジプトに挟まれて、つぶされる道をたどりつつあった。政治的には、終始、親バビロニアの立場を貫いたため、様々な苦難を体験した。

Cf) エレミヤ 15:10 ああ、わたしは災いだ。わが母よ、どうしてわたしを産んだのか。国中でわたしは争いの絶えぬ男/いさかいの絶えぬ男とされている。わたしはだれの債権者になったことも/だれの債務者になったこともないのに/だれもがわたしを呪う。

《新しい契約》

国が滅亡するという危機の中であって、新しい契約という希望が語られる。イスラエルの復興が伝えられるのである。その日には、律法が人々の内側に与えられ、人々は神を知ることができる。また、神が民の罪を赦すという約束が与えられる。

Cf) エレミヤ 31:33 しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。
31:34 そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。

1. 正しい（ ）感を持つとう。

Cf) マタイ 6:34 だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。」

2. 危機の時こそ、

()の時であることを知ろう。

Cf) エレミヤ31:31 見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。

【藤林邦夫師3分間メッセージ】 『ボタンを付ける』 293

外出しようとして、新しいワイシャツに手を通して、手首のところのボタンが取れているのに気が付くことがあります。

アレっ?と思い、「これじゃダメだ」と次のカッターシャツを出すのですが、せっかくの気分が損なわれます。何か出鼻をくじかれたような気がするのです。

クリーニング店で、業界大手の白洋舎の創業者、五十嵐健治はクリスチャンですが、まず手がけたことは、ワイシャツや洋服のボタンが取れているなら、必ずそれをつけてお返しするということでした。

これは小さいことのようにですが、お客さまの気持ちを大切にするという観点からは、実に重要なことでありまして、そこから真のサービスというものが生まれてきたのです。

日本にまだドライ・クリーニングがない。従って、羽毛の襟巻きや革製品などは、外国に選択に出していたその時代から、いかにお客さまに仕えていくかを考えて、その事業に力を入れてきた五十嵐健治の原点は、ボタン付けにあったのです。それが後年の事業の隆盛を招いたのです。

「小事に忠実な人は、大事にも忠実である」(ルカ伝 16:10)とイエスは言われました。

小事は小事ではないのです。小事こそ大事なのです。小事を大事として取り繕う人は、大事な業、大事業を成し遂げる人であります。

しかし小事を大事として取り扱うには、それなりの心構えが要ります。

五十嵐健治は、若い頃、天下の糸平という成金に憧れました。天下を動かす商人となるヴィジョンでした。しかし、神を信じて救われました。祈ることを知りました。そして祈りによって、クリーニング事業に志し、その道に出たのです。

ボタンを付けることは、祈りによって示されたことでしょう。祈りこそ、小事を大事に育てるものであります。

★今週の予定

30日(木) BLD 祈禱会 19:30- アバハウス 山下 翼師 (都来チャーチ)
7月3日(日) 聖日礼拝 11:00- アバハウス 今井直喜師

★礼拝のご案内

日曜日 教会学校・New Creation Seminar 9:15 アバハウス 3F, 4F
聖日礼拝 11:00- アバハウス
手話礼拝 11:00- アバハウス (第三週目の聖日礼拝)
支援礼拝 13:30- アバハウス
木曜祈禱会 19:30- アバハウス

★7月の予定

3日(日) 聖日礼拝 11:00- アバハウス 今井直喜師
7日(木) BLD 祈禱会 19:30- アバハウス 和田絵理沙神学生
10日(日) 聖日礼拝 11:00- アバハウス
14日(木) BLD 祈禱会 19:30- アバハウス 和田 力 神学生
17日(日) 聖日礼拝 11:00- アバハウス
21日(木) BLD 祈禱会 19:30- アバハウス 吉田義則師 (京都グローリーC)
24日(日) 聖日礼拝 11:00- アバハウス
28日(木) BLD 祈禱会 19:30- アバハウス 関 誠 師 (京都グレースBC)
31日(日) 聖日礼拝 11:00- アバハウス 今井久美子師 誕生日祝福

★8月の予定

4日(木) BLD 祈禱会 19:30- アバハウス 徳井清純師 (大阪神愛福音C)
7日(日) 野外礼拝&BBQ 10:00- 近江舞子 ※要出席登録 (伝助)
11日(木) BLD 祈禱会 19:30- アバハウス 和田絵理沙神学生
14日(日) 聖日礼拝 11:00- アバハウス 今井直喜師

◆2022年6月15日のBLD 祈禱会出席者数 《合計16名》

◆2022年6月19日(日)の礼拝出席者数 《合計44名》

礼拝…28名 (Zoom)…11名 CS…5名

京都中央チャペル (αβγα - HOUSE)

〒604-0845 京都市中京区烏丸御池上る二条殿町540

Tel: 075-229-3058 Fax: 075-229-3059

<http://www.chuochapel.com>

郵便振替 01090-3-52922 名義: 京都中央チャペル